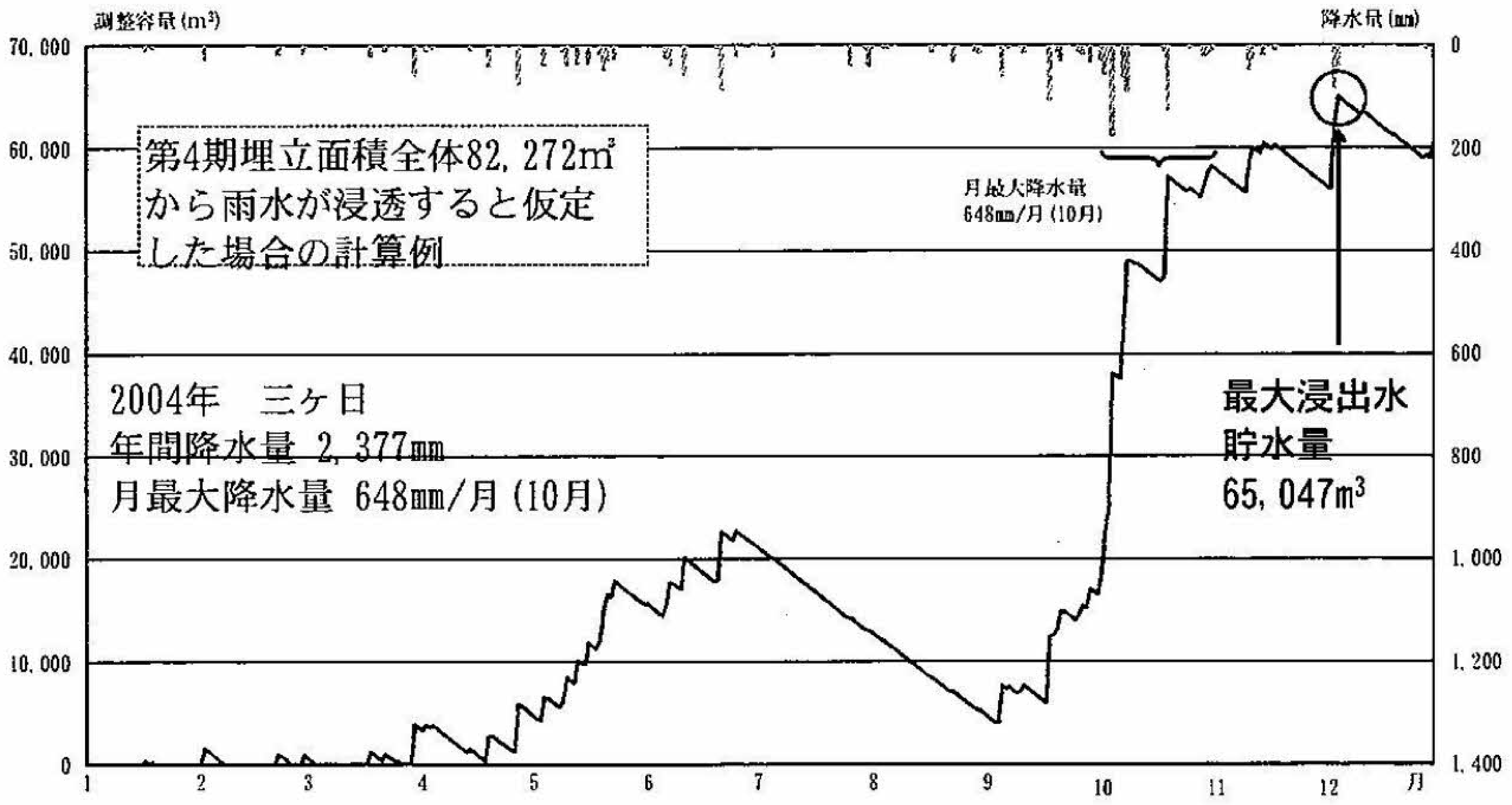
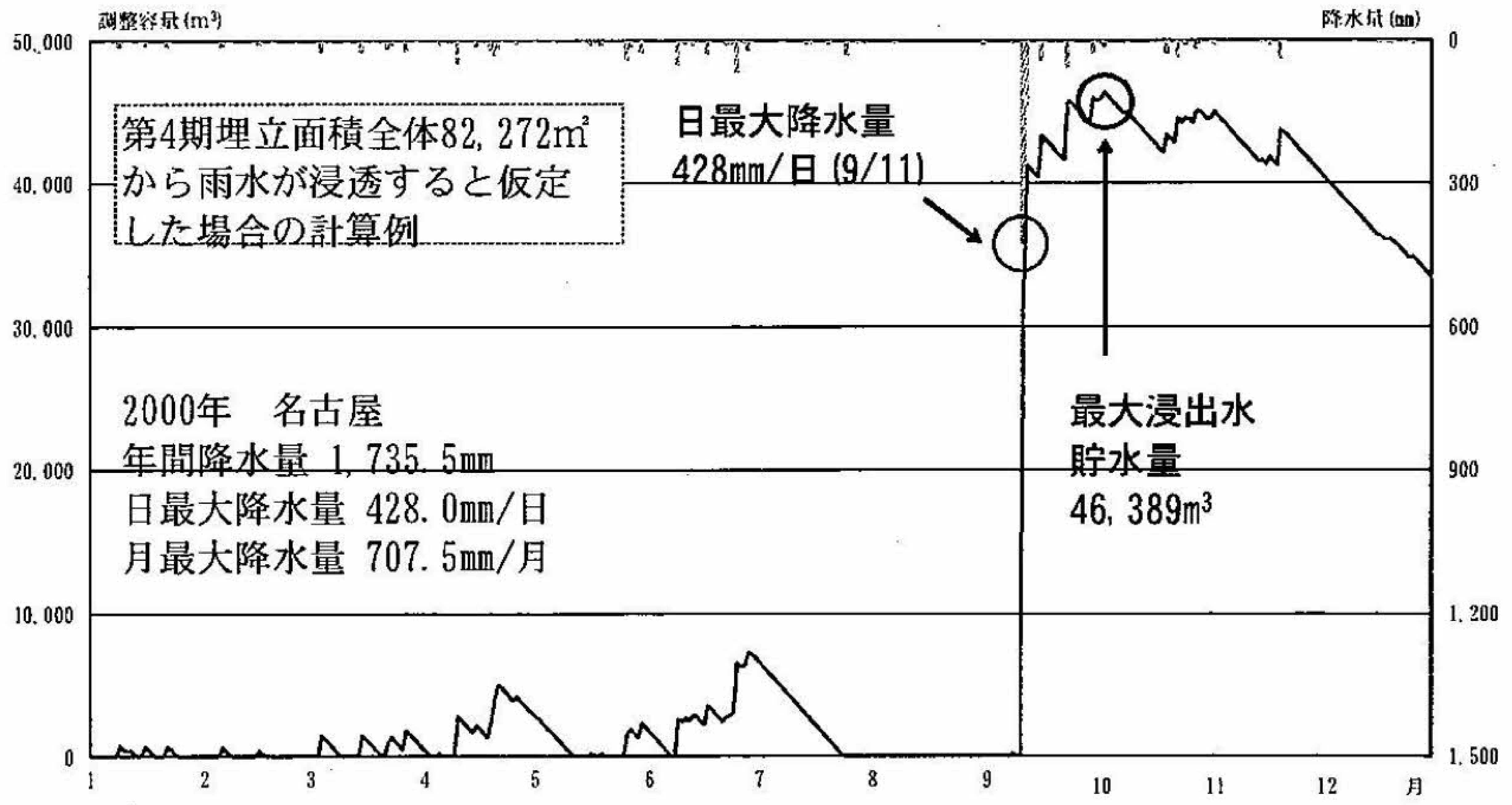
C-5-2 最終処分場（その他災害）

意見書No	内容
136	豪雨に関する見解書の第１期～3 期の計算及び想定表に準じて、第 4 期全体 82,272m2(第 4 期①の 49,940m2 ではなく)での三ヶ日 648 ミリ、名古屋 707 ミリを仮定した場合の、浸出水発生量と計算式、並びに貯水水深の想定を聞きたい。
	御質問の条件で、三ヶ日で月間 648 ミリの降雨があった 2004 年のシミュレーションと名古屋で月間 707 ミリの降雨があった 2000 年のシミュレーションの結果は以下のとおりです。



2004 年三ヶ日の降雨（月間 648 ミリ）の場合のシミュレーション



2000 年名古屋の降雨（月間 707 ミリ）の場合のシミュレーション

計算式は事業計画書にも記載してありますが、社団法人全国都市清掃会議発行の「廃棄物最終処分場整備の計画・設計要領」に従い、下記のとおり求めます。(詳細は事業計画書を御覧下さい。)

$$Q = 1/1000 \cdot I \cdot (C1 \cdot A1 + C2 \cdot A2)$$

Q：浸出水量（㎥／日）
I：日降水量（mm／日）　※アメダスのデータを使用
C1：埋立中の区画の浸出係数　$C1 = 1 - E1 / I$
C2：埋立終了後の区画の浸出係数　$C2 = 0.6\,C1$
E1：蒸発量（mm／日）
A1：埋立中の区画面積（㎡）
A2：埋立終了後の区画面積（㎡）

これより、対象となる月間の浸出水発生量は以下のとおり求められます。

降雨条件	浸出水発生量
三ヶ日 2004 年 10 月 (月間降雨量 648 ミリ)	49,840m³
名古屋 2000 年 9 月 (月間降雨量 707 ミリ)	52,219m³

しかしながら、日々浸出水処理施設において浸出水の処理を行っていますので、実際には貯水量を知る必要があります。その計算方法は、次の式によりある日の貯水量が計算されますので、それを積算していけば、任意の日における貯水量を算出することが可能です。

ある日の貯水量
＝前日までの貯水量＋当日の浸出水発生量－水処理施設の処理能力(288m³/日)

これをもとに、最大浸出水貯水量、そしてそのときの想定貯水水深を計算したものが以下の表です。なお、想定貯水水深は埋立地内浸出水貯水量（最大浸出水貯水量より調整槽の容量 10,000 ㎥を引いたもの）で埋立地の面積 82,272 ㎡で割って求められます。

降雨条件	最大浸出水貯水量(埋立地内)	想定貯水水深
三ヶ日 2004 年(月最大 648 ミリ)	65,047m³(55,047m³)	67 ㎝
名古屋 2000 年(月最大 707 ミリ)	46,389m³(36,389m³)	44 ㎝

注）カッコ内は、調整槽容量 10,000m³ を除いた値。

	月最大降雨量は三ヶ日より名古屋の方が多いのですが、年間降雨量は三ヶ日の 2,377 ミリに対して名古屋は 1,735 ミリでしたので、上記のように最大浸出水貯水量が逆転する計算結果となりました。